

ベトナムにおける農産加工業

岡山県ベトナムビジネスサポートデスク (I-GLOCAL Tran Thi Khanh Linh)

1. 初めに

ベトナムの人口の 70%以上が農業又は農産加工業に従事している。ベトナムは米、コーヒー、お茶などの農産物以外にも多くの種類の農産加工品があるものの、世界的にあまり知られていない。その理由は、農産加工業の成長性が低い、機械設備が古い等の理由で、良質な製品を作り出せていないためだと言われており、その結果、輸出できるレベルの品質が確保できないという問題に直面している。

しかし、WTO 加盟などを経てベトナムが国際市場に参加したことにより、農産加工業は成長のチャンスを得た。また、ベトナム農業にとっても最新の科学技術の導入が可能になるなど、農産加工業の改善や成長を見込むことができるようになった。

2. ベトナムにおける農産加工業の状況

2.1 ベトナムの農産物

ベトナムは、農業をするにあたり、自然条件、土壌及び労働力において大きな強みがある。近年、ベトナムは近代的な世界水準の農業に近づきつつあり、農産物の輸出も増加している。2016年の輸出額は 151 億 USD で、前年の 140 億 4 千万 USD と比較して 7.5%も増加している。

米、ゴム、コーヒー豆、お茶、カシューナッツはベトナムの主要な農産物で、輸出商品として成長性が高い分野だと考えられている。特に、米においては、インド、タイに次いで世界第 3 位の輸出国となった。また、ベトナムはブラジルに次いで世界第 2 位のコーヒー豆の生産国で、世界最大のロブスタコーヒーの生産国である。さらに天然ゴムの生産においても世界第 3 位であり、ゴムの輸出に関しても、タイ、インドネシア、マレーシアに次ぎ世界第 4 位の位置にある。

2030 年を見据えて策定された、2020 年までの農業開発基盤計画の中では、米、コーヒー豆、ゴム、カシューナッツ、お茶が重点農産品とされる。具体的には、以下を目標としている。

- 米: 2020 年以降の稲作用地を 38 億 1200 万 ha。その内二期作用地を 320 万 ha とする。
- コーヒー豆: 栽培面積を 5 億 ha。その内アラビカコーヒー豆栽培面積を 6 千万 ha とする。生産地域は高原、南東部、中部海岸南側とする。
- ゴム: 2011 年時点で栽培面積は 4 億 7200 万 ha。2020 年までの目標を 8 億 ha とする。
- カシューナッツ: 栽培面積 4 億 ha。2020 年以降にこれまで未使用の土地を新たに 2 千万 ha 追加する。生産地域は高原、南東部、中部海岸南側とする。

- お茶：長期間安定している栽培面積を 1 億 4 千万 ha とする。これは 2010 年から 1 千万 ha 増加することになる。食品安全衛生が確保されたお茶の製造プロセスを構築するほか、高品質な新種のお茶を開発する。

2.2 ベトナムにおける農産物加工の状況

主な農産物加工の対象としては、米、コーヒー豆、ゴム、お茶、カシューナッツ、サトウキビ、野菜、胡椒、飼料等が挙げられる。

上記のように、多種類で豊富な農産物があるものの、その加工品が世界で幅広く入手できるとはいえない。その大きな理由のひとつは農産加工業が未発達なことである。具体的には、加工技術が乏しい、設備投資をしていない等の理由で品質の低い農産加工品が多い。また、農産物の安全性が低く、加工コストが高い割に売値が低くなってしまふ。さらにはベトナムの農産物加工所の多くが小規模で、加工プロセスが確立されておらず、農産物保存技術が低いことなどが挙げられる。

この状況を変えるため、2030 年を見据えた 2020 年までの農業開発基盤計画では、以下の通り農産加工業の改善企画に関する具体的な指針を打ち出している。

- 精米加工：設備投資を行い、精米能力 2500 万トン/年とし、収穫量の 60%を加工処理可能なものにする。
- コーヒー豆加工：企業と生産者の協力により、2010 年に大規模化が行われ、コーヒー加工比率が 20%となった。以後 2015 年、2020 年にそれぞれ 40%、70%に増加させる。パウダーコーヒー及びインスタントコーヒー生産量を 2010 年に 1 万トン、2015 年に 2 万トンとし、2020 年に 3 万トンを達成する見込みである。
- ゴム加工：技術改善、合理的な加工プロセス確立を行い、2020 年までに加工量 130 万トン/年を達成する。
- カシューナッツ加工：製品の種類を多様化し、フライドカシューナッツ、ナッツバター、菓子等の加工比率を 40%とし、国内消費量を増やす。
- 茶葉加工：茶葉加工工場の投資・改修を行う。総生産量の 70%を加工するため、加工量を 84 万トン/年、製品重量 27 万トンを達成する。2020 年には、ベトナムの茶葉価格は世界平均価格と同等となる見通しである。

更に、2017 年に政府は以下のとおりの農産物加工業界の成長計画に取り組むこととしている。

- 農産物加工業界の情報収集目的で関連する業界団体と協力する。
- ベトナム米のブランド開発プロジェクトを行う。
- 技術水準向上のために農産物加工所の技術水準調査を行った上で付加価値を上げるよう取り組む。
- 食品衛生安全に注力する。
- 各製品の農産物加工基準を作成する。

不十分な点はあるが、政府が上記計画を推進し、農産物加工業は新たな展開を迎えられる可能性が高い。更に、国際市場への参加により経験を積み、先進国の実績を学び、そこから吸収する良いチャンスである。将来的には、ベトナムの農産加工業界も飛躍していくことが見込まれている。

2.3 農産加工業に従事する人材

ベトナムの農産加工業の発展にあたり、向学心のある若い労働力は大きく役立つといえる。加えて最近では、大学、短期大学において農産物・食品加工の専攻分野が設けられあり、トレーニングを行っている。これにより農産物加工を行う豊富な知識を得た人材が輩出が期待される。政府は、今後優先的に成長促進が見込まれる三業種の一つに農産加工業を挙げており、当該分野の訓練を受けた人材への国内需要は、2025年までに国内第2位に高まる見込みである。

上記に加えて、ベトナムは世界の先進国の科学技術を習得すべく取組を続けている。これは農産物加工業の成長のため重要な取組のひとつで、将来的に革新的な成長産業となるべく弱みを克服する努力を続けている。

3. おわりに

ベトナムの農産加工業は、農産物、人材などを強みとした政策を用いて発展しつつある。当該分野は外資系企業、国内企業にとってもビジネスチャンスであり、特に外資系企業は政府優遇を享受できるため、外国投資家による投資が今後進むと考えられる。

4. 参考資料

1. 農林水産品加工局発行 2016年計画実施結果報告書及び2017年を見据えた計画
2. 2030年を見据えた2020年にかけての農業生産開発企画承認に関わる決定 124/QD-TTg号
3. Vietnamnet ニュース：ベトナム農産物ブランドの拡大（2017年4月3日）
<http://vietnamnet.vn/vn/kinh-doanh/dau-tu/mo-rong-han-dien-duong-bang-cho-thuong-hieu-nong-san-viet-364744.html> ;
4. Bac Giang 省農業農村開発局発表ニュース：農産物加工業の強み（2016年6月14日）
<http://sonongnghiep.bacgiang.gov.vn/bantuyengiao/21041/Diem-noi-bat-cua-nganh-che-bien-nong-san.html> ;
5. Tapchicongthuong ニュース：2005～2010年の農産物加工業の成長概略（2011年9月5日）
<http://tapchicongthuong.vn/tinh-hinh-phat-trien-nganh-che-bien-nong-san-viet-nam-hien-nay-16136p12c152.htm> ;
6. Vnexpress ニュース：Dong Giao 省のパイナップルの栽培・加工プロセス（2017年1月5日）

<http://vnexpress.net/tin-tuc/thoi-su/nong-nghiep-sach/quy-trinh-trong-va-che-bien-dua-xuat-khau-dong-giao-3523436.html>;

7. Channuoivietnam ニュース：ベトナムは欧州と農産物加工分野で協力（2017年3月30日）

<http://channuoivietnam.com/viet-nam-se-bat-tay-voi-chau-au-che-bien-nong-san/>;

8. Gappingworld ニュース：2016年におけるベトナム主要農産物の生産・輸出及び農業の未来予想（2017年2月9日）

<https://gappingworld.wordpress.com/2017/02/09/tinh-hinh-san-xuat-xuat-khau-cac-nong-san-chu-luc-cua-viet-nam-nam-2016-va-du-bao/>.